

【心理誘導】極上リラクゼーションの罠
～「重症ですね」オイルのぬるぬる愛撫に、理性を完全破壊されました～

サンプル（一部抜粋）

「個室サロンによろこそ。
まずはこちらの服に着替えて頂けますか？」

「...ええ。薄い紙の下着になります。
その他の服は全て脱いで頂きます。」

「なにか？
ああ...。マッサージは繊細なものですからね。
位置が数ミリずれるだけで、身体への効果が変わってくるのです。
お客様がよりリラックスできるように、この格好をお願いしています。」

「...こちらのオイルを使用していきますね。
さっぱりとした柑橘系の香りですが...温度が上がるとほんの少し甘く香るんですよ。」

（とろっとしたオイルを手の平にこぼす音）

「では首のあたりから失礼しますね。」

（ゆっくりと円を描くように中心へと近づいていく）

「...身体がビクビクと震えていますね。
どうされました？」

「...言えないのですね。
きっと毒素のせいですね。」

「ええ。しっかり毒素を、先から出していかないといけませんね。
お客様の身体の為ですから、動かないでくださいね。」

「...その紙の下着、それだけ濡れてしまっていては使い物になりませんね。
捨ててしまいいましようか。」

「（低い声で）...何を躊躇しているんですか？」

「僕はただお客様の疲れをほぐしているだけなのに...そうでしょう？」

（グチュグチュと激しい音・潮を吹く音）

「...すごいな...。
沢山毒素がでましたね。良い傾向ですよ。
その調子でもっと出してしまいいましようね。」